

令和 2 年度 第 2 回江別市かわまちづくり協議会 会議録（要点筆記）

日 時：令和 2 年 1 2 月 2 1 日（月） 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0

場 所：江別市民会館小ホール

出席委員：小篠隆生会長、鴻野徹副会長、内田悟委員、町村均委員、
高橋利光委員、林匡宏委員、境珠美委員、藤原英大委員（計 8 名）

欠席委員：なし

事 務 局：経済部長、経済部次長、商工労働課長、観光振興課長、総務部財務室契約管財
課長、企画政策部政策推進課長、建設部管理課参事・主幹（用地・渉外）、教育
部郷土資料館長、建設部治水課長・主幹、商工労働課主査（2 名）、ほか 3 名

アドバイザー：江別河川事務所（2 名）

傍 聴 者：1 名

会議概要

1 開会

2 議事（1）旧岡田倉庫の利活用及び移設先について

ア 旧岡田倉庫利活用WG（11 月 18 日）開催報告

高橋WG長より資料 1 を報告

【質疑】

○林委員

具体的な内容を議論するWG（ワーキンググループ）のような場は大事。外輪船や施設の利活用、運営にとどまらず、条丁目地区をどうしていくかという話を、WGや勉強会でも具体的な議論ができれば良い。より多くの人に参加しやすく、ハードルが低い場を作っていくことが大事である。

○小篠会長

色々な情報をWGで把握することができた。まだまだ始めたばかりで、これから課題はたくさん出てくると思う。

イ 旧岡田倉庫の施設、活動概要等

事務局より資料 2 を説明

【質疑】

○小篠会長

旧岡田倉庫活用民間運営協議会の収支決算書について、使用料（借地・借家）はどういう内容か。移設後も同様の構図となるか。

○商工労働課長

旧岡田邸と旧岡田倉庫は市有財産であるため、市へ使用料を払うものである。移設後も同様に市有財産を借りて運営していただく手法となるかどうかは、現段階では未定である。

○林委員

収入部分を増やすというところを今後具体的に議論していけたらと思う。自主事業の収入のほか、テナント収入や広告収入なども考えられるが、江別市としてこれは難しいというのは現時点であるのか。

○商工労働課長

江別市の公共施設的な扱いではないので、その側面からの制限はそれほどない。今後、指定管理も含めた色々な管理方法が考えられる中で、施設の位置付けをした先に制限が出てくる可能性もある。

○高橋委員

江別市の文化財としての位置づけは今後もずっと変わらないか。民間が運営するとなった場合も、今のように補助金が変わらず出るのか。

○商工労働課長

文化財施設の性質と運営に対しての補助金の間には関連性がない。どのような方にどのように運営してもらうか、江別市がどう関わっていくかによって補助金を支給できる可能性もあり、一方、単独で運営できるように利益を出すという運営方法もある。

○鴻野副会長

旧岡田倉庫を移転したとして、その時の運営主体が旧岡田倉庫活用民間運営協議会となるか否かは流動的なのか。現状では民間運営協議会が運営しているが、民間運営協議会との協議はなされているのか。

○商工労働課長

旧岡田倉庫活用民間運営協議会には、これまで補助金を支出して、保存と活用・運営を担っていただいていた。解体・移設後の運営については、民間運営協議会長と話をしてきたが、民間運営協議会の中で結論を出しているわけではない。協議している中で江別市が知りえた情報は本日の協議会資料として提示している。

○小篠会長

核心に触れる議論になっているような気がする。かわまちづくり協議会としては、旧岡田倉庫の移転だけではなく、そこで何をするのか運営ができるかどうかとも同時に話さないと決めづらい。

ウ 協議会委員からの意見集約

事務局より資料3の説明

○境委員

意見は資料の別紙にまとめた。隣の旧岡田邸とセットで活用すれば収入が見込めると思い、図も描いた。条丁目における上品で歴史を重んじる雰囲気から「奥江別」という呼称とし、利用者を増やす案や、ヨットを川で乗れる環境を活かす取り組みなどを提案した。

【質疑】

○町村委員

旧岡田邸もしくはそれに代わるものが一緒にないと施設自体が生きてこない。旧岡田倉庫だけが存在していたとしても、なかなか場所として活かすことは厳しい。境委員から説明のあった、旧岡田邸宅の中を歩いて旧岡田倉庫に行くアプローチの仕方は非常に面白いアイデアだと思う。現在は民間運営協議会が運営しているが、移転後の旧岡田倉庫やエリアをどのように運営していくのか色々な方法を考えていくことが良い。

○商工労働課長

指定管理や建物の権利移転も含め、協議会で議論を重ねていただきたい。

○境委員

外輪船だけが残っても事業が成り立つか難しい。老朽化した岡田邸を頑張って残して活用するか、又は、近隣の飲食店等の協力者を募り、場所を提供してもらう仕組み作りをするか、2つの選択肢があると思われる。

また、万人にとって素晴らしいものとするのは難しいので、江別市で文化的活動を行っている方たちから意見をもらったらいと思う。

○小篠会長

色々な人たちと連携して意向を伺いながら、コアになる組織・団体をどのようにデザインしていくかを考えていくことが重要である。旧岡田邸を残すパターンもあれば、残さないパターンもあり、協議会で考えていく必要がある。

○藤原委員

そもそも旧岡田邸を使いたいと思っても、リフォーム等が必要で金額的に無理なのであれば、色々アイデアを出したとしても話にならない。現在使える状態にあるのか。

○商工労働課長

旧岡田邸については、修繕にどのくらいの経費がかかるか現時点ではわからず、最低限の管理をしながら使っている状況である。江別市の財産として適正に使用してもらうために、耐震等の色々な要素を検討する必要があると思う。

○藤原委員

実際に利用している人から話を聞くと、素晴らしい建物であり、残したい気持ちはあるものの、リフォームも大変なくらい、いろいろなところでガタがきているらしい。非現実的な費用をかけたとしても、土台がダメであれば活用できない。旧岡田邸が今後も使えるかどうかによって、移設後の倉庫の向きや使い方も変わるので、調べてもらいたい。

○町村委員

旧岡田邸の厳しい状況を本日知った。旧岡田邸を残せないならば、それに代わるものを

用意しなければならない。旧岡田倉庫はひとつの大きな空間として活かす考え方もある。

民間の知恵やカネを導入して、建物そのものを存続させて、ある程度のスペースは自由な考え方で活用してもらい、残る部分は倉庫の運営者が使えるようにしていく考え方もあると思う。非常にいい建物であるので、残すことをあきらめないで考えていくのも重要だと思う。

○内田委員

旧岡田倉庫の課題は大きく2つあって、一つは利活用、もう一つは運営方法であるが、ごっちゃになって議論されているところがあるので、整理したい。倉庫と母屋は一体として考えるべきだが、旧岡田邸は床も歪んでいるし、トイレも使いづらく、そのまま使うことは不可能だと思う。お金はかかるが同じような雰囲気のものに建て替え、可能ならば、旧岡田倉庫と同じ雰囲気の石造りのものを建てるのが一番良いと思う。

運営については、民間運営協議会の会長と話したことがあるが、ご自身の健康状態のこともあって運営協議会の存続を考えておらず、誰かやってくれる人がいれば運営協議会を続けてもよい、いなければ江別市に戻すという意向。運営については、ゼロベースを基本にしながら江別市と会長で決めていけばよい。

○小篠会長

旧岡田倉庫だけの問題ではないという話と、利活用・運営のことをクリアにしないとダメだという話があったかと思う。旧岡田倉庫を移転しただけでは利用がなかなかイメージしにくく活用されない。旧岡田邸が使えるればよいが、使えない場合は代替施設が必要になるだろうというのが皆さんの意見。付帯意見付きでA氏のところに旧岡田倉庫を移設するという同意を協議会で決定するのが一つの大きな流れだと思う。

旧岡田倉庫の移設先については、倉庫を十分活用するために、現状の旧岡田邸のような施設とセットで考える必要があるため、旧岡田邸が使えるのか、使えなければ代替施設を近傍に作る必要があることを条件に、A氏の土地に旧岡田倉庫を移転することで決定したいが、よろしいか。

○一同

異議なし。

エ かわまちづくりの進め方について

事務局より資料4の説明

【質疑】

○内田委員

かわまちづくり協議会の役割は、かわまちづくり計画策定のための申請書を国土交通省に提出するのが一番だと思うが、雛形というかフォーマットはあるのか。

○河川事務所

申請手続については、この地域でどのような活動をしたいのか、どのような夢を描いているのが重要なポイントになる。それをまとめていただいた後、かわまちづくり計画の中に具体的に盛り込んでいき、指定の様式で作成していただく作業が必要になる。事務局から話があったように、北海道内ないしは全国の事例に関する情報を、今後勉強会を通じて紹介させていただきたい。

○小篠会長

勉強会の開催については、江別河川事務所の協力を得てやっていただくことになると思うが、将来的には勉強会を協議会のWGとして位置付けて、次年度に素案を作っていくための様々な情報を得て可能性を明らかにしていく仕立てとしたい。

この地区では、どんな活動ができて誰がやれるのかという話や、どんな組織立てでやる必要があるのかも重要なポイント。

かわまちづくり計画の先進事例に関する情報を提供してもらい、運営のエッセンスを勉強し、その中で江別だったら何ができそうかを今年度末から次年度前半にかけて議論して、それをまとめながらかわまちづくり計画の素案を作っていければ良い。

○境委員

旧岡田邸について、例えば折衷案になってしまうが、今ある状態で使えるうちはそんなにお金をかけずにコンパクトに様子を見ながら使って、いよいよ厳しいという時に建て替えないリフォームをやるのは、予算的に今決めないといけないものなのか。

○小篠会長

協議会で何が価値になるかを決めていくことが大事。旧岡田邸は移転補償の対象ではないため、事業費についてはゼロだと考えた方がいいかもしれない。そうであれば、民間等に改修費を出してもらって運営してもらうストーリーを考えていくこともポイント。江別市にすべてを任せるのは無理が出てくる。

○経済部長

老朽化しているのは確かなので、建築的に見て使えるだけ使うという考えもあるが、逆にダメになった時にどうするかはまた一からの話となり、その時点での江別市の考え方かなり影響される。旧岡田倉庫自体は文化財ということもあって大きな変更は難しく、母屋を改修して使うのがいいのか、逆に、駐車場スペースの問題もあるので、母屋を解体して必要な機能だけを持った施設を建てるのかという判断が出てくる。方向性を協議会で出させていただきながら、市の判断が必要かと考える。

○小篠会長

旧岡田倉庫をなぜ残すかという話に大きく絡むが、千歳川における舟運の歴史を色濃く留めるランドマークを解体しないで未来に繋げる中で、一体で使われてきた旧岡田倉庫と母屋を資産として大事にするかどうかを考えるのがポイントになってくる。機能をどのように担保するかは、他の地域で川沿いの歴史的資産をどのように活用してまちづくりを展開しようとしているかという事例を勉強しながら見ていくのが良い。新たな施設を手立て

する資金が全くないので、それも含めて考えていく必要がある。今後の課題としたい。

○林委員

勉強会の開催については賛成であるが、来ない人もいるので、そういう人にも平等に正しい情報を伝えていく手段があってもよい。ホームページで公開しても見ない人も多いため、例えば、外輪船の向かいのスープの2階をかわまちのギャラリーとし、議論経過を紹介してもおもしろいのではないか。

条丁目地区内のすべての使えそうなものを一回洗い出して、ロードマップを作って機運を高めていく、そのすべてがかわまちづくりだと思うので、仲間をどうやって集めていくかも作戦を立ててやっていく必要がある。

管理・運営の仕組みもゼロベースで考え、勉強会で事例を集めて、WGで機運を高めていく。フィージビリティスタディを並行してやっていると絵に描いた餅になってしまう。境委員の発言にあった「奥江別」というネーミングも大事だと思う。

○小篠会長

エブリがやったような発信方法やロゴも含めて考えていくのもあり。可能性を試す形でやっていくのがよい。運営に興味を持ってくれる人がいるかどうか、サウンディングをやるべきだと思っている。

○境委員

WGについては、フード、建築等のように細分化してやっていくのがいい。やってみたいことに対して、ある種専門的な知識がある人を呼んでやらないと、毎回意見がまとまらず大変になる。条丁目地区にはいろんな可能性があるため、仲間づくりは早めにした方がいい。ハブになる組織や希望者をどのタイミングで募るかが重要になる。

○小篠会長

勉強会の開催は決まっているが、WGのスケジューリングができていないので、具体的な年度末のスケジュールを考える必要がある。事務局と私の方で練らせていただき、決めていきたい。仲間を作るタイミングは結構難しい。皆さんに情報が漏れなく伝わった段階であればすぐ作れると思うが、今は情報がアンバランスになっているので、地ならし期間が必要である。

3 その他

○商工労働課長

1回目のかわまちづくり勉強会を、年明けの1/19（火）午後6時からオンラインで開催する方向で、江別河川事務所と調整している。詳細が 決定次第、案内する。

○小篠会長

かわまちづくり勉強会は誰が参加してもよい。リモートでの開催となれば、他地域の先進事例の話も聞けるかもしれない。

4 閉会